

特別栽培米研究部会 活活楽楽篤農クラブ
IKIIRAKURAKUTOKUNOUCUB



特別栽培米
環境こだわり農産物

2019年
栽培日記
JA滋賀蒲生町

Vol.4 ハウス管理編

【2019.04.16】

今年は例年より4月から気温の低い日が多く、苗が元気に育たないといけなないので苗の管理が大変になってきます。苗箱は職員が天候を見ながら、温度と水をしっかり管理し、生産者の方に健康な苗をお渡しできるように大切に育てられます。

今年は育苗作業が始まった頃から気温が低い日が多く、冷たい雨が降る日もありました。ですが寒いからといって育苗作業を怠ってはいけません。外は寒いですが、ハウス内は温度管理がしっかりされているので、ハウス内にいると自然に汗が出てきます。休憩を適度にとって水分補給しながら頑張っています。

稲苗も人間と同じで高温や水不足は大敵で、必要以上の高温や水不足は「**苗焼け**」の原因となります。そうならないようにするために、温度と水の管理が必要なんです！

稲苗が快適な環境で生育できるように、日中のハウス温度を **20℃～25℃** に保つようにハウスの窓を開閉し歓喜をして温度調節します。30℃を超え高温になりすぎると、「**苗焼け**」する可能性があります。またハウス内が **5℃** 以下になると低温で稲苗の成長の妨げとなるので、夜間の管理も必要です。

ハウス内の温度管理と同じく水野管理も大変重要です。水不足になると苗の葉が針のようになってしまいます。また、水をやりすぎると苗が徒長してしまい、倒伏の原因となります。基本的に1日2回朝昼にハウス内のスプリンクラーで水やりをしています。

このように天候や気温の変化に合わせて育苗に適した温度や水の調整をし、生産者の皆さまに健康な稲苗をお渡しするまで大切に育苗しています。



↑スプリンクラーで散水中



↑ハウス側面の窓を開けて換気します



↑生育中の稲苗（元気に育っています！）